子ども子育て支援に関するアンケート結果<概要版・昭和町>

1. 調査の概要

(1)調査目的

子ども・子育て支援法(平成 24 年法律第 65 号)に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする「昭和町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画的に給付・事業を実施することとなった。

この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するにあたって、住民の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握するためにアンケート調査を行った。

(2)調査日時

平成25年11月7日から平成25年11月20日まで

(3)調査対象及び調査方法

区分	調査方法	配布数	回収数	回収率	無効
未就学児	郵送	1,000	607	60.7%	1
小学生	郵送	500	284	56.8%	0
合	計	1,500	891	59.4%	1

(4) 本報告書中の記号について

n・・・・回答者数 (number) をあらわす。 $\lceil n = 100 \rfloor$ は、回答者数が 100 人ということ。

- ※ 複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。
- ※ アンケート結果の数値は小数点第 2 位を四捨五入しており、単一回答であっても合計 が 100%にならない場合がある。

2. 基本情報

問 1 : 居住地区(S A) n=890

地区名	回答数	割合
押原小学区	194	21.8%
西条小学区	369	41.5%
常永小学区	269	30.2%
不明	58	6.5%

きょうだい数回答数割合1 人30734.5%2 人41646.7%3 人13615.3%4 人141.6%

問3:きょうだいの数(N) n=890

 5人
 1
 0.1%

 不明
 16
 1.8%

問2:子どもの年齢(N)

(11月	1日現	生) n=890
------	-----	----------

(11 月 1 日ウ	11工/ II-08	90
年齢	回答数	割合
1 歳未満	55	6.2%
2 歳未満	73	8.2%
3 歳未満	68	7.6%
4 歳未満	83	9.3%
5 歳未満	98	11.0%
6 歳未満	115	12.9%
7歳未満	118	13.3%
8 歳未満	26	2.9%
9 歳未満	47	5.3%
9歳以上	199	22.4%
不明	8	0.9%

問4:回答者の続柄(SA) n=890

回答者の 続柄	回答数	割合
母親	799	89.8%
父親	83	9.3%
その他	4	0.4%
不明	4	0.4%

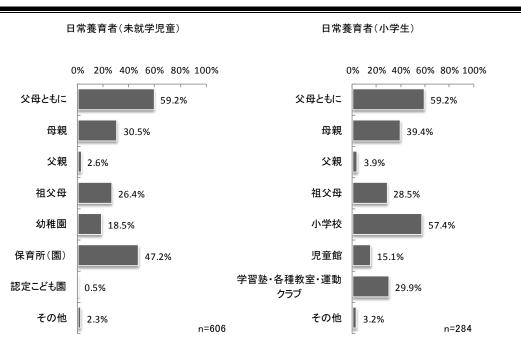
問5:配偶者の有無(SA) n=890

配偶者の 有無	回答数	割合
配偶者あり	817	91.8%
配偶者なし	61	6.9%
不明	12	1.3%

3. 子育て環境

「家庭・家族」以外では、日常養育者として「保育所」や「幼稚園」、「小学校」の割合が高い。日常的に親族等に頼れるのは3割程度で、緊急時でも5割程度となっている。相談先は「知人や友人」である割合が高い。

問7:日常養育者(MA)



区分	父母ともに	母親	父親	祖父母	幼稚園	保育所 (園)	認定こども園	その他
未就学児	359	185	16	160	112	286	3	14

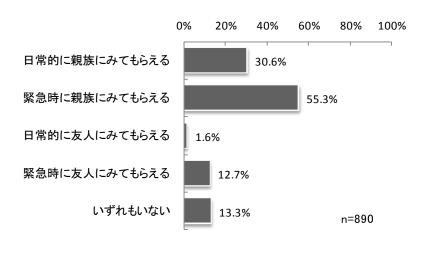
区分	父母ともに	母親	父親	祖父母	小学校	児童館	学習塾・ 運動クラ ブ等	その他
小学生	168	112	11	81	163	43	85	9

【調査結果】

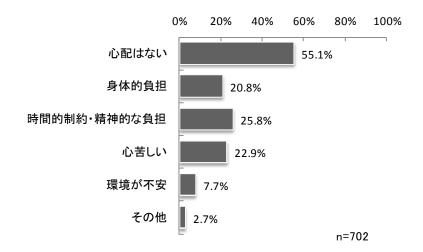
未就学児童、小学生ともに「父母ともに」が最も多い。未就学児童では「保育所(園)」、「母親」、「祖父母」と続いている。小学生では「小学校」、「母親」、「学習塾・運動クラブ等」であった。

問9:みてもらえるか (MA) 問9-1:親族の負担 (MA)





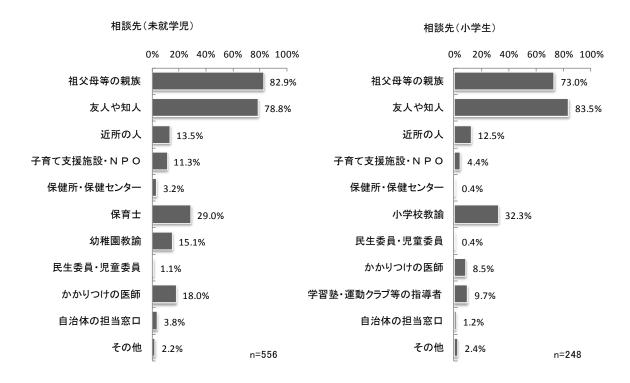
親族の負担



【調査結果】

緊急時に親族にみてもらえるという割合は過半数となったが、それ以外は半数以下であり、友人等の場合は、緊急時においても12.7%のみであった。また、いずれもいないという回答は13.3%となっている。

「心配はない」と回答した割合は 55.1%であった。「身体的負担」、「時間的制約・精神的な負担」、「心苦しい」はほぼ同じ割合でそれぞれ 20%程度であった。



【未就学児】

区 分	祖父母等の	友人や知人	近所の人	施設・NPO 子育て支援	保健所・保健	保 育 士	幼稚園教諭	民生委員·児	を師 医師	自治体の担当 窓口	その他
未就学児	461	438	75	63	18	161	84	6	100	21	12

【小学生】

区 分	祖父母等の	友人や知人	近所の人	施設・NPO 子育て支援	保健所・保健	小学校教諭	民生委員•児童	かかりつけの医	ラブ等の指導者	自治体の担当	その他
小学生	181	207	31	11	1	80	1	21	24	3	6

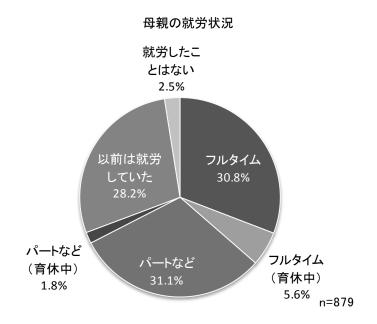
【調査結果】

未就学児童、小学生ともに「親族」や「友人・知人」という回答が多く、80%前後となっている。未就学児童では「保育士」、「かかりつけの医師」、小学生では「小学校教諭」が続いている。

4. 就労状況

母親の就労状況は、「フルタイム」「パート」「現在就労していない」それぞれ 3 割前後でほぼ均等であり、父親の就労状況は 97.6%が「フルタイム」であった。

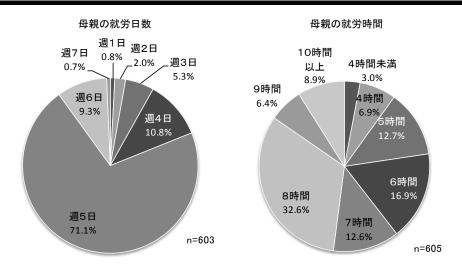
問12(1):母親の就労状況(SA)



母親の就労状況	回答数
フルタイム	271
フルタイム(育休中)	49
パートなど	273
パートなど(育休中)	16
以前は就労していた	248
就労したことはない	22

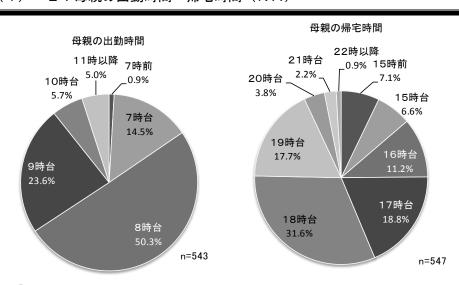
【調査結果】

「パートなど」が最も多く 31.1%であった。「フルタイム」と「以前は就労していた」がほぼ同数で続いている。育休中は、フルタイムとパートあわせて 7.4%であった。



就労日数については、週5日の就労が最も多く、71.1%を占めている。週4日と週6日が約10%で続いている。

就労時間については、8 時間未満が過半数を占めた。その一方で、8.9%が 10 時間以上 と回答している。



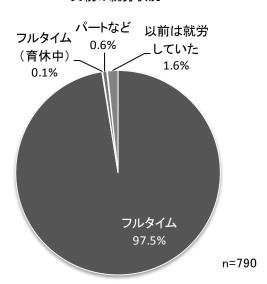
問12(1)-2:母親の出勤時間・帰宅時間(NA)

【調査結果】

出勤時間については、9割近くが7時台から9時台となっている。

帰宅時間については、18 時台が 31.6% と最も多く、19 時台と 17 時台がほぼ同じ割合で続いているが、15 時台以前も 13.7%、20 時台以降も 6.0%であり、ばらつきがみられる。

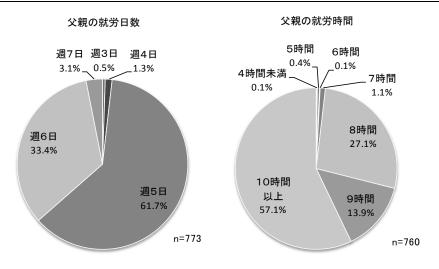
父親の就労状況



父親の就労状況	回答数
フルタイム	770
フルタイム(育休中)	1
パートなど	5
パートなど(育休中)	1
以前は就労していた	13
就労したことはない	

【調査結果】

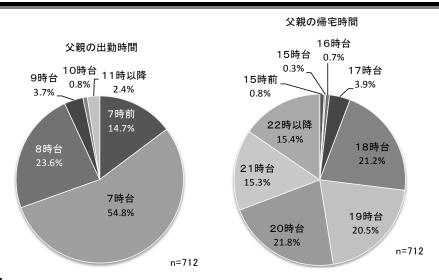
フルタイムが大部分を占め、97.5%であった。育休中は、0.1%、2件であった。



就労日数については、週5日の就労が61.7%と最も多く、週6日とあわせると95.1%を占めている。

就労時間については、8 時間という回答は 27.1%で、57.1%は 10 時間以上と回答している。

問12(2)-2:父親の出勤時間・帰宅時間(NA)



【調査結果】

出勤時間については、7時台が多く、9時までには93.1%が出勤している。

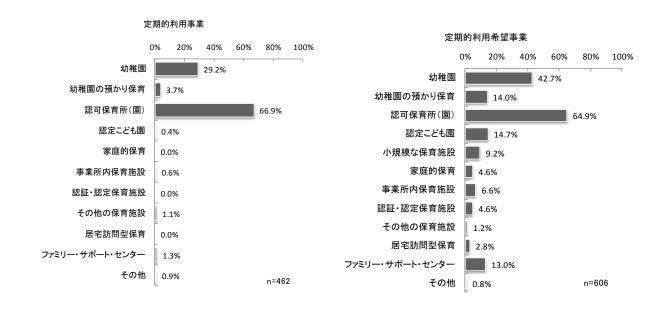
帰宅時間については、20 時台が 21.8% と最も多く、18 時台の 21.2%、19 時台の 20.5% と続いている。21 時台以降は 30.7%であった。

5. 平日の定期的な教育・保育事業

76.4%が定期的な教育・保育事業を利用しており、66.9%は認可保育所(園)、29.2%は幼稚園を利用している。希望では幼稚園や認定こども園、ファミリー・サポート・センターの割合が増加している。 現在、町外の施設等を利用している割合が高いが、希望では町内の割合が高くなっている。

問15:幼稚園や保育所(園)などの定期的な教育・保育事業の利用(SA)

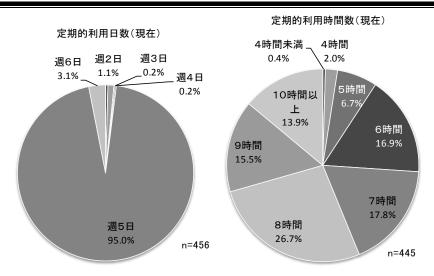
問15-1:定期利用事業(MA) 問16:定期的利用希望事業(SA)



【調査結果】

平日における定期的な教育・保育事業を利用していると回答した割合は76.4%であった。 平日における定期的な教育・保育事業としては、認可保育所(園)が最も多く66.9%であり、次いで幼稚園が29.2%となっている。

現在の状況と比較すると、認可保育所(園) や幼稚園が大部分を占める点は変わらないが、幼稚園(含む預かり保育)がやや増加し、認可保育所(園)は微減している。また、認定こども園やファミリー・サポート・センターと回答する割合が増加している。



週5日の利用が大部分を占めている。

利用時間数については、ばらつきがあり、8 時間が最も多く 26.7%を占めているが、6 時間、7 時間及び 9 時間も 10%台後半の割合となっている。

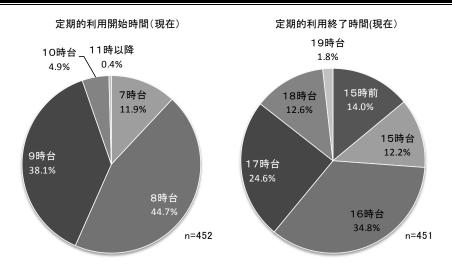
定期的利用日数(希望) 定期的利用時間数(希望) 週7日 週1日 週2日 4時間 5時間 0.3% 0.6% 週4日 0.3% 4時間未 2.2% 0.3% 満 0.3% 週6日 6時間 13.9% 10時間以 12.0% 上 24.6% 7時間 14.8% 9時間 19.2% 8時間 调5日 83.3% 26.5% n=324 n=317

問15-2(2):定期的利用日数・時間(希望)(NA)

【調査結果】

利用希望については、週 5 日が最も多く 83.3%であったが、現在の状況に比べて約 11 ポイント減少し、週 6 日が約 10 ポイント増加して 13.9%となった。

利用時間数については、現在の状況に比べ8時間以下の割合がすべて減少し、9時間が約3ポイント、10時間以上が約10ポイント増加した。



開始時間については、8 時台が最も多く 44.7%であった。9 時台とあわせて 82.8%を占めている。

終了時間については、16 時台が 34.8% と最も多いが、15 時前が 14.0%、18 時台が 12.6% とばらつきがみられる。

定期的利用終了時間(希望) 定期的利用開始時間(希望) 11時以降 7時前 19時台 20時台 15時前 10時台 0.3% _0.3% 7.2% 1.9% _2.2% 3.1% 7時台 15時台 14.7% 14.6% 18時台 9時台 17.4% 34.1% 16時台 29.0% 17時台 8時台 27.7% 47.5% n=320 n=321

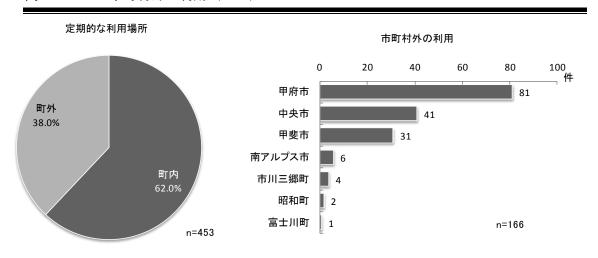
問15-2(2):定期的利用開始·終了時間(希望)(NA)

【調査結果】

開始時間については、現在の状況と比較して、9時台が4.0ポイント減少し、7時台・8時台がそれぞれ2ポイント強増加している。

終了時間については、15 時台以前が 14.0%から 2.2%に 11.8 ポイント減少し、17 時台から 19 時台にかけて $3.1\sim5.4$ ポイント増加している。

問15-3:定期的利用場所(SA) 問15-3:市町村外の利用(MA)

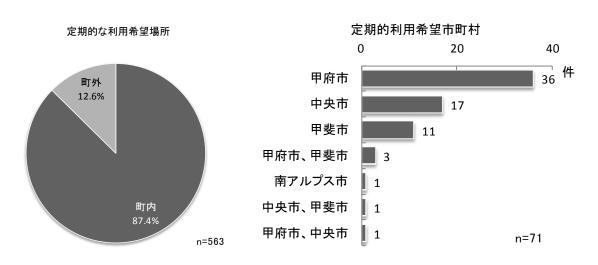


【調査結果】

町内の利用が62.0%であった。

昭和町外としては、甲府市が大部分を占め、その他は中央市や甲斐市などであった。

問 1 6 - 1: 定期的利用希望場所(SA)問 1 6 - 1: 定期的利用希望市町村(SA)



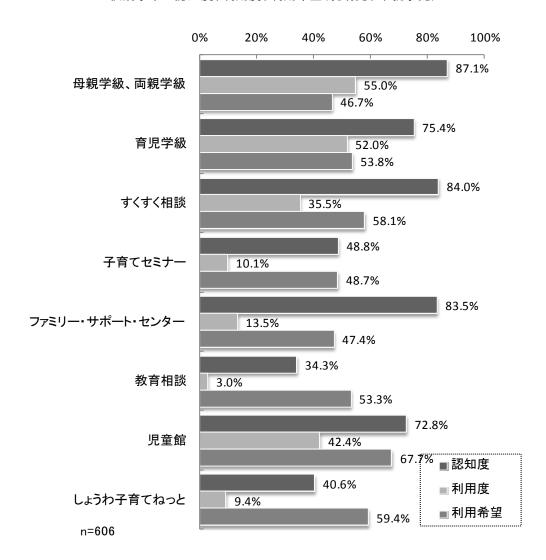
【調査結果】

町内の利用が87.4%で、現在の状況に比べて約25ポイント増加した。 昭和町外としては、甲府市、中央市が挙がっている。

6. 地域子育て支援事業

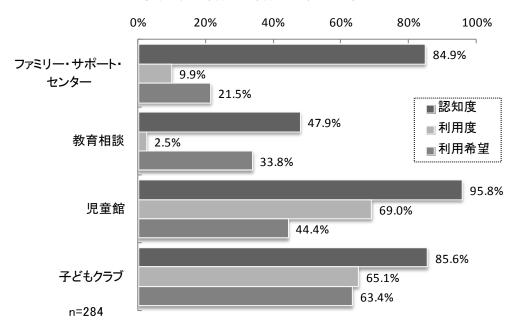
問19:個別事業の認知度、利用度、利用希望(MA)

個別事業の認知度、利用度、利用希望(乳幼児、未就学児)



乳幼児·未就学児	認知度	利用度	利用希望
母親学級、両親学級	528	333	283
育児学級	457	315	326
すくすく相談	509	215	352
子育てセミナー	296	61	295
ファミリー・サポート・センター	506	82	287
教育相談	208	18	323
児童館	441	257	410
しょうわ子育てねっと	246	57	360





小学生	認知度	利用度	利用希望
ファミリー・サポート・センター	241	28	61
教育相談	136	7	96
児童館	272	196	126
子どもクラブ	243	185	180

未就学児について、認知度は多くの事業は80%程度だが、「児童館」は70%台、「しょうわ子育てねっと」「教育相談」は30~40%台にとどまる。利用度は「母親学級、両親学級」「育児学級」が50%台、「児童館」「すくすく相談」が40%台であり、他は10%台以下である。「母親学級、両親学級」以外の事業は実際の利用度より利用希望が上回っている。実際の利用度が低調なほど、利用希望度の増加が大きくなる傾向が見られる。

小学生について、認知度は「児童館」が 95.8%と高く、「教育相談」の 40%台を除いて は 80%台であった。

利用度は「児童館」「子どもクラブ」が 60%台であるものの、「ファミリー・サポート・センター」「教育相談」は 10%を割り込んでいる。

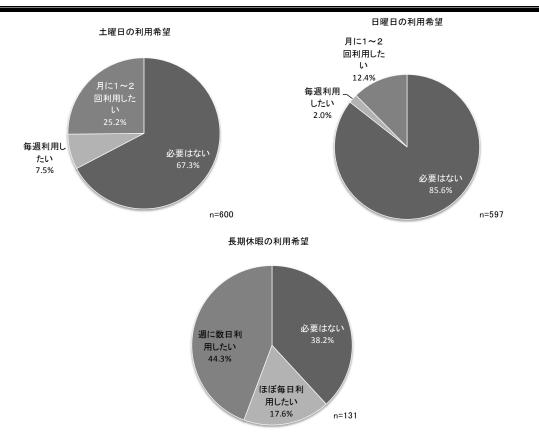
また、「ファミリー・サポート・センター」「教育相談」は、利用希望が実際の利用度を上回っている。

7. 休日の定期的な教育・保育事業

土曜日の利用が必要ない割合は 67.3%、日曜日は 85.6%であった。月に 1~2回と回答する割合はそれぞれ 25.2%、12.4%となっている。長期休暇 については、17.6%がほぼ毎日利用したいと回答している。

問20(1): 土曜日の定期利用希望(SA)

問20(2):日曜日の定期利用希望(SA)、問21:長期休暇の利用希望(SA)



【調査結果】

土曜日の利用について、「必要はない」という回答が67.3%を占めた。「毎週利用したい」は7.5%、「月に $1\sim2$ 回利用したい」は25.2%であった。

日曜日の利用について、「必要はない」という回答が85.6%を占めた。「毎週利用したい」は2.0%、「月に $1\sim2$ 回利用したい」は12.4%であった。

幼稚園利用者の長期休暇時の利用について、「必要はない」という回答は 38.2%であり、「週に数日利用したい」が最も多く 44.3%であった。「ほぼ毎日利用したい」は 17.6%となっている。

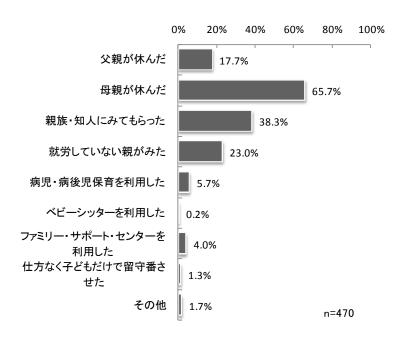
8. 病気の際の対応

病児対応は 64.5%が必要があったと回答し、65.7%は母親が休んだと回答している。病児保育の希望は 39.6%で、年 6 日以下が多い。

問22:病児対応の有無(SA) 問22-1:病児対処方法(MA)

病児対応の有無	回答数	割合
あった	470	64.5%
なかった	259	35.5%

病児の対処方法



【調査結果】

病児対応の必要性が「あった」のは64.5%であった。

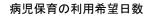
病児への対処方法としては「母親が休んだ」が最も多く 65.7%であり、以降「親族・知人に見てもらった」が 38.3%、「就労していない親がみた」が 23.0%で続く。

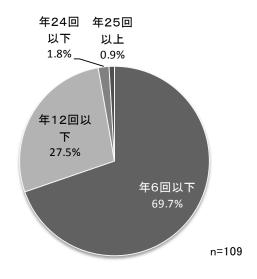
「母親が休んだ」は 300 人が平均 6.8 日、「親族・知人に見てもらった」は 172 人が平均 6.8 日、「就労していない親がみた」は 101 人が平均 7.4 日となっている。

病児対処日数	回答者数	日数合計	日数平均	日数最大
父親が休んだ	82	255	3.1	14
母親が休んだ	300	2048	6.8	60
親族・知人にみてもらった	172	1170	6.8	60
就労していない親がみた	101	745	7.4	40
病児・病後児保育を利用した	25	138	5.5	50
ベビーシッターを利用した	0	0	0.0	0
ファミリー・サポート・センターを利用した	3	6	2.0	3
仕方なく子どもだけで留守番させた	2	6	3.0	5
その他	7	45	6.4	15

問22-2:病児保育等の利用希望(SA)

病児保育等の利用希望	回答数	割合
利用したい	126	39.6%
利用したいとは思わない	192	60.4%





39.6%が「利用したい」と回答した。

利用頻度としては「年 6 回以下」が最も多く 69.7%であり、以降「年 12 回以下」が 27.5%、「年 24 回以下」が 1.8%で続く。

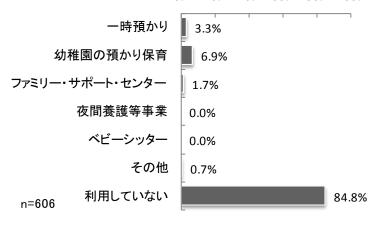
9. 不定期の教育・保育事業

8割以上が利用しておらず、特に利用する必要がないとする回答が大部分を 占めるている。一方で、一時預かりや幼稚園の預かり保育などあわせておよ そ 10%は、年間 10~16 日程度利用している。

問23:不定期に利用する事業(SA)

不定期に利用する事業

0% 20% 40% 60% 80% 100%



不定期に利用する事業	回答数
一時預かり	20
幼稚園の預かり保育	42
ファミリー・サポート・センター	10
夜間養護等事業	0
ベビーシッター	0
その他	4
利用していない	514

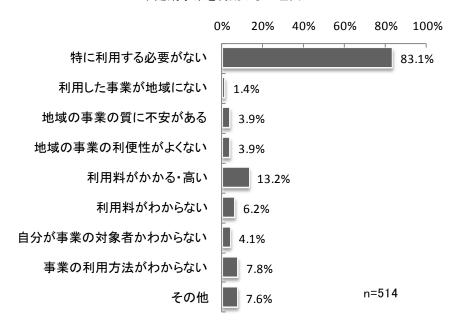
	日数合計	回答者数	日数平均	日数最大
一時預かり	190	18	10.6	48
幼稚園の預かり保育	660	41	16.1	80
ファミリー・サポート・センター	35	9	3.9	20
夜間養護等事業	0	0	0.0	0
ベビーシッター	0	0	0.0	0
その他	13	4	3.3	5

【調査結果】

不定期の教育・保育事業については、利用していないという回答が 84.8%を占めた。利用している場合は、幼稚園の預かり保育が多い。

預かり保育の場合には、41人が平均16.1日利用している。一時預かりの場合は、18人が平均10.6日利用している。

不定期事業を利用しない理由



不定期事業を利用しない理由	回答数
特に利用する必要がない	427
利用した事業が地域にない	7
地域の事業の質に不安がある	20
地域の事業の利便性がよくない	20
利用料がかかる・高い	68
利用料がわからない	32
自分が事業の対象者かわからない	21
事業の利用方法がわからない	40
その他	39

【調査結果】

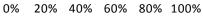
不定期の教育・保育事業を利用しない理由としては、「特に利用する必要がない」が 83.1%と大部分を占めた。「利用料がかかる・高い」13.2%、「事業の利用方法がわからない」7.8%と続いている。

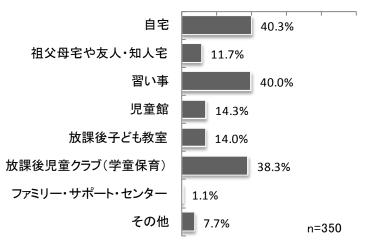
10. 放課後の過ごし方

放課後の過ごし方としては、低学年、高学年ともに自宅、習い事、放課後児童クラスの割合が高い。放課後児童クラスは高学年の方が遅くまで預かってもらいたいとの希望が多い。

問26:放課後の過ごし方(1~3年生時の希望)(MA)

放課後の過ごし方(1~3年生)





放課後の過ごし方 (1~3年生時の希望)	回答数
自宅	141
祖父母宅や友人・知人宅	41
習い事	140
児童館	50
放課後子ども教室	49
放課後児童クラブ(学童保育)	134
ファミリー・サポート・センター	4
その他	27

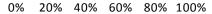
放課後の過ごし方 (1~3年生時の希望)	回答者数	日数合計	日数平均	日数最大
自宅	141	479	3.4	7
祖父母宅や友人・知人宅	41	87	2.1	7
習い事	140	299	2.1	6
児童館	50	182	3.6	6
放課後子ども教室	49	94	1.9	5
放課後児童クラブ(学童保育)	134	573	4.3	6
ファミリー・サポート・センター	4	8	2.0	5
その他	27	60	2.2	5

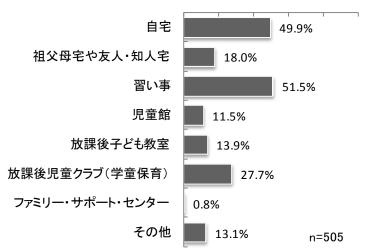
※日数は1週間あたりの日数

【調査結果】

放課後の過ごす場所として希望するところは、「自宅」が 40.3%で最も多く、ほぼ同水準で「習い事」 40.0%、「放課後児童クラブ」 38.3%が挙がっている。日数平均では「放課後児童クラブ」が 4.3 日、「自宅」は 3.4 日であるのに対し、習い事は 2.1 日であった。「児童館」は回答割合は 14.3%であるものの、日数平均は 3.6 日で 2 番目に多い。

放課後の過ごし方(4~6年生時の希望)





放課後の過ごし方 (4~6年生時の希望)	回答数
自宅	252
祖父母宅や友人・知人宅	91
習い事	260
児童館	58
放課後子ども教室	70
放課後児童クラブ(学童保育)	140
ファミリー・サポート・センター	4
その他	66

放課後希望 (4~6年生時の希望)	日数合計	回答者数	日数平均	日数最大
自宅	252	820	3.3	7
祖父母宅や友人・知人宅	91	214	2.4	7
習い事	260	564	2.2	6
児童館	58	182	3.1	6
放課後子ども教室	70	161	2.3	5
放課後児童クラブ(学童保育)	140	524	3.7	6
ファミリー・サポート・センター	4	12	3.0	5
その他	66	138	2.1	5

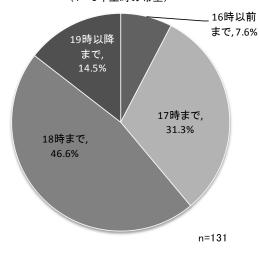
※日数は1週間あたりの日数

【調査結果】

放課後の過ごす場所として希望するところは、「習い事」が51.5%で最も多く、以降「自宅」が49.9%「放課後児童クラブ」27.7%で続く。日数平均では「放課後児童クラブ」が3.7日、「自宅」は3.3日、習い事は2.2日であった。

〈終了時間〉

放課後児童クラブの終了時間 (1~3年生時の希望)



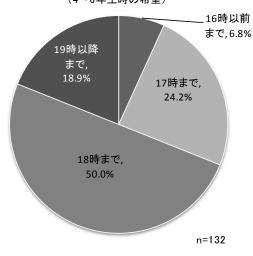
放課後児童クラブの終了時間 (1~3年生)	回答数
16 時以前まで	10
17 時まで	41
18 時まで	61
19 時以降まで	19

【調査結果】

終了時間については、「17 時まで」と「18 時まで」の合計が 77.9%である。「19 時以降まで」は 14.5%であった。

(終了時間)

放課後児童クラブの終了時間 (4~6年生時の希望)



放課後児童クラブの終了時間 (4~6年生時の希望)	回答数
16 時以前まで	9
17 時まで	32
18 時まで	66
19 時以降まで	25

【調査結果】

終了時間については、「17 時まで」と「18 時まで」の合計が 74.2%である。「19 時以降まで」は 18.9%であった。

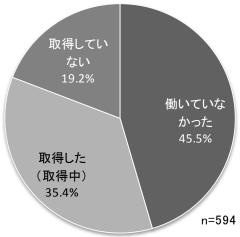
11. 職場の両立支援制度

母親の35.4%は育休を取得している。未取得理由は退職したためというもの が多い。父親の育休取得は 1.0%、5人にとどまっている。

問30:母親の育児休暇取得(SA)



育休の取得(母親)

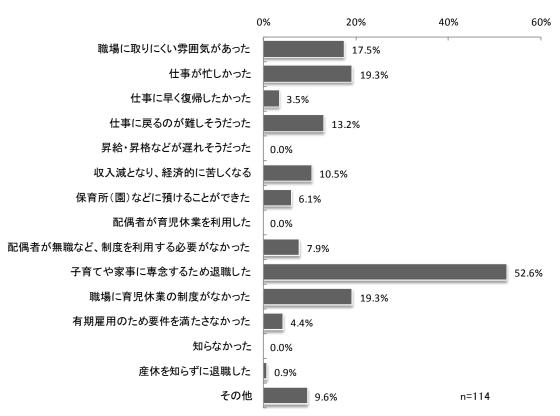


育休の取得(母親)	回答数
働いていなかった	270
取得した(取得中)	210
取得していない	114

【調査結果】

母親の育児休暇の取得については、「働いていなかった」が最も多く45.5%であり、以 降「取得した(取得中)」が35.4%、「取得していない」が19.2%で続く。

育休未取得の理由(母親)

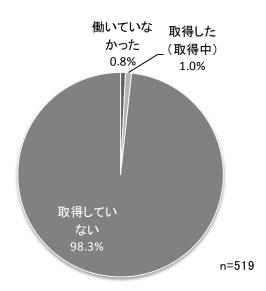


育休未取得の理由(母親)	回答数
職場に取りにくい雰囲気があった	20
仕事が忙しかった	22
仕事に早く復帰したかった	4
仕事に戻るのが難しそうだった	15
昇給・昇格などが遅れそうだった	0
収入減となり、経済的に苦しくなる	12
保育所(園)などに預けることができた	7
配偶者が育児休業を利用した	0
配偶者が無職など、制度を利用する必要がなかった	9
子育てや家事に専念するため退職した	60
職場に育児休業の制度がなかった	22
有期雇用のため要件を満たさなかった	5
知らなかった	0
産休を知らずに退職した	1
その他	11

【調査結果】

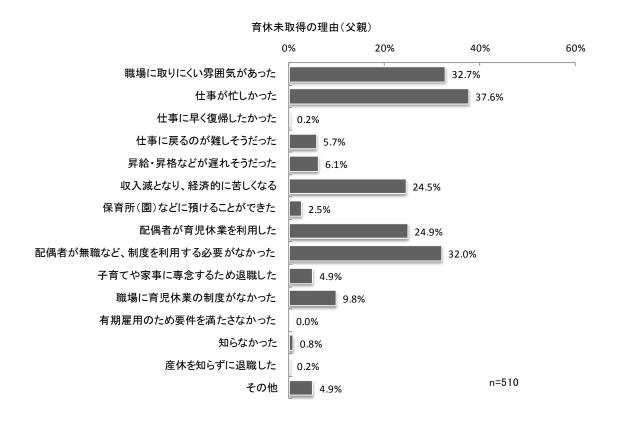
母親の育児休暇の未取得理由について「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く、52.6%が回答している。その他には、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業の制度がなかった」が19.3%、「職場に取りにくい雰囲気があった」が17.5%となっている。

育休の取得(父親)



育休の取得(父親)	回答数
働いていなかった	4
取得した(取得中)	5
取得していない	510

「取得していない」が大部分を占め、98.3%であった。



育休未取得の理由(父親)	回答数
職場に取りにくい雰囲気があった	167
仕事が忙しかった	192
仕事に早く復帰したかった	1
仕事に戻るのが難しそうだった	29
昇給・昇格などが遅れそうだった	31
収入減となり、経済的に苦しくなる	125
保育所(園)などに預けることができた	13
配偶者が育児休業を利用した	127
配偶者が無職など、制度を利用する必要がなかった	163
子育てや家事に専念するため退職した	25
職場に育児休業の制度がなかった	50
有期雇用のため要件を満たさなかった	0
知らなかった	4
産休を知らずに退職した	1
その他	25

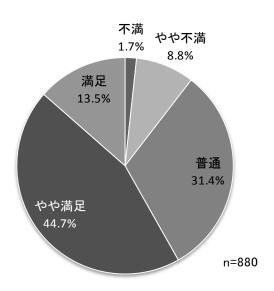
父親の育児休暇の未取 得理由について「仕事が 忙しかった」が最も多く、 37.6%が回答している。以 降、「職場に取りにくい雰 囲気があった」が32.7%、 「配偶者が無職など、制 度を利用する必要がなかった」が32.0%、「配偶者 が育児休暇を利用した」 が24.9%、「収入減となり、 経済的に苦しくなる」が 24.5%となっている。

12. 満足度及び自由回答

満足度については、「不満」「やや不満」とする割合は 1 割程度であり、「やや満足」「満足」とする満足度は半数を超えている。

子育て環境・支援への満足度(SA)

子育て環境・支援への満足度



子育て環境・支援への満足度	回答数
不満	15
やや不満	77
普通	276
やや満足	393
満足	119

【調査結果】

町の子育て環境・支援施策の満足度について、「やや満足」が 44.7%で最も多く、次いで「普通」が 31.4%、「満足」が 13.5%であった。また「やや不満」は 8.8%、「不満」は 1.7%であった。

特徴的な意見としては、以下のような意見があげられる。

- ・幼稚園・保育所に関して、預けたくても定員や基準により預けられないとの 意見が多く、そのため仕方なく他市町村の施設を利用しているとの声も少な くない。
- ・園のカリキュラム、指導者の質・応対の、各園間においてのバラつきに不満 が見られた。
- ・放課後児童クラブ(学童保育)については、共働き世帯から時間延長(19:00以降まで)や、高学年までの拡張、土日及び長期休暇中の利用を望む声が多く見られる。
- ・良い・満足しているという意見の中では、保育料の面や子育て行事の種類・ 頻度などへの意見が多く寄せられた。
- ・改善すべき点としては、町内に幼稚園が無いことや、子どもたちの遊ぶ場所 の確保に関する要望が多く、また、母親が交流する場が少なく、機会も乏しい という意見が多かった。
- ・経済的負担については、医療費を中学三年生まで無償化の拡充希望が非常に 多い。また、保育料以外の部分(主にファミリー・サポート・センター)で負 担が大きいとの声が見られた。